

をおもひいで、いづれの時にかわする、けふはましては、のかなしがらる、ことは、くだりし時の大のかずたらねば、ふるうたに、かすはたらでぞかへるべらなるといふことを、おもひいで、人のよめる、

世のなかにおもひやれどもこをこふるおもひにまさるおもひなきかな、といひつ、なん九日、○二月、中略かくのぼる人々のなかに、京よりくだりし時に、みなひと子どもなかりき、いたれりし國にてぞ、子うめるものども有あへる、人みな船のとまる所に、いだきつ、おりのりす、これを見て、むかしのこのは、かなしきにたへずして、

なかりしもありつ、かへるひとの子をありしもなくてくるがかなしき、といひてぞなきける、ち、もこれをき、て、いか、あらん、かうやうの事ども、うたもこのむとて、あるにもあらざるべし、もろこしもこ、も、おもふことにたぬぬ時のわざとか、十六日、京にいたりたちてうれし家にいたりてかどにいるに、月あかければ、いとよくありさま見ゆ、○中略この家にてうまれしをんなごの、もろともにかへらねば、いか、はかなしき、○下略

〔平家物語〕二代の後の事

故近衛の院のきさき太皇太后宮○藤原多子と申しは、大炊のみかどの右大臣公能公の御むすめなり、○中略主上○二條きさき御入内有べきよし、右大臣家にせんじをくださる、○中略御じゆだいの後、は、れいけい殿にぞまし、ける、○中略かのせいりやうでんの、ぐはとの御しやうじには、むかしかなおか、かきたりし、ゑんざんのあり明の月もありとかや、故院のいまだ幼主にて、ましませしそのかみ、なにとなき御てまさぐりの、つるでに、かきくもらかさせ給ひたりしが、有しながらに、少もたがはせ給はぬを御らんじて、先帝のむかしもや、御戀しうおぼしめされけん、おもひきやうき身ながらにめぐりきておなじ雲の月を見んとは、そのあひだの御ながら